



野比だより

横須賀市立野比中学校

平成31年(2019年)1月21日(月) NO. 59

保護者の方と一緒に読みましょう

置かれた 場所で咲く

野比中の卒業生である青柳さん(市総合2年)のことは、すでにみなさんも、神奈川新聞やタウンニュース等で報道されているので知っていると思います。

自らの経験をもとに書かれた「置かれた場所で咲く」と題してスピーチしたが、神奈川県で最優秀賞に輝き全国大会に出場してこられました。

挫折や入院を乗り越え、自ら働いたお金でオーストラリアに短期留学(横須賀総合高校の姉妹校であるエラノラ高校)をした経験を話してくれました。

みなさんと同じように、中学校時代は部活や駅伝を経験してきた先輩…、真剣な表情で聞き入っていたのが印象的です。

【講演内容の一部より】

～私は2年次になってから、渡辺和子さんの『置かれた場所で咲く』という本を読みました。

この本を読んで、はっと気づかされたことがあります。私は入学後に充実した高校生活を送ることが出来なかったのは、周りの環境に原因があると思っていました。

けれどもこの本を読んで、「置かれたところこそが、今の自分の居場所なんだ」ということを受け入れることができなかった自分自身に、その原因はあったのだと気付いたのです。



そのことに気付いた今では、「自分自身が置かれている場所、この横須賀総合高校の定時制で頑張ろう」と前向きに考えられるようになりました。

さらには、自分が周囲の友達に心を開いていったことで、仲の良い友達も増え、高校生活が楽しくなりました。

振り返ってみると、私は、今まで多くの人に支えられてきました。これからは自分が他者を支えることができるような人になりたいと思います。そのために、謙虚な気持ちで1歩ずつ、前を向いて歩き、どんな場所であっても、自分らしく花を精一杯咲かせられる人になります。

どうでしょうか？

講演会に参加しなかった3年生は、今はまさに入試に向かってまっしぐら…です。でも、先生も含めて、みなさんは4月からは新しい環境の中に身を置きます。先生は青柳さんの「**どんな場所であっても、自分らしく花を精一杯咲かせられる**」がとても印象的です。

これから先、環境に馴染(なじ)めずに苦労することは絶対にあると思うのです。そんなときに、彼女の言葉を思い出して、謙虚に前向きに歩み始めてほしいと願っています。

先生の学校だよりには、「私らしく生きる」と書いています。それは「**これを大切にしたい!**」「**これを頑張りたい!**」と思えるものを探すことだと思っているのです。

先生はすでに見つけ、それに向かって邁進(まいしん)しています。さあ～次に進もう!

3年の底力

嬉しい結果が届きました。もちろん、あくまでも平均点ですから、目標点に達しなかった人もいるかもしれません。しかし、野比中学校3年として、最後の実力テストで県の平均点を上回ったことは、大きな成果だと考えています。

これを考えれば、残り約1カ月…で、個人でも学級でも、まだまだ高めあえるのではないのでしょうか。

そのためには…今まで以上に

- ① わからない問題があったら、気軽に質問できる雰囲気になる。
- ② わからないと言った仲間に多くの人が反応し、教えあえる雰囲気になる。

ではないでしょうか。**1, 2年生も、低きに流れず、高め会える集団を今からつくる**ことが**重要な**のです。



あとは、

絶対にできる!!

絶対にかからない!!

と強く念じるのです。

意外に重要なのが、問題用紙を前にしたときに、「これはできる問題」「これはできそうな問題」「これは手強い問題」と分けて、優先順に解いていくことが出来るかです。問題の番号通りにやって、「後で見直したら、もっと簡単な問題があったのに時間がなくなってしまった」や「焦ってミスをした」なんてことにつながってしまっただけでは、もったいない!

それでもできない問題があったら、「こんな問題は、きっとみんなできないよ!」って思って、次の教科に切り替えるのです。

そして、インフルエンザも流行の兆しがありますが、「絶対にかからないぞ!」っていう気合いです。それでもかかってしまったら、「保健室受検」もありますし、「追検査」だったあるのです。今は、ひたすら前を向き続けるのです。不安は、受検生すべての人がもっているものです。**Fight!**